

# 働きすぎ黒書 ニュース

全日本教職員組合（全教）生権局

東京都千代田区二番町 12-1 3 F

2007年3月9日

## このままでいいのでしょうか？

愛知・養護教諭

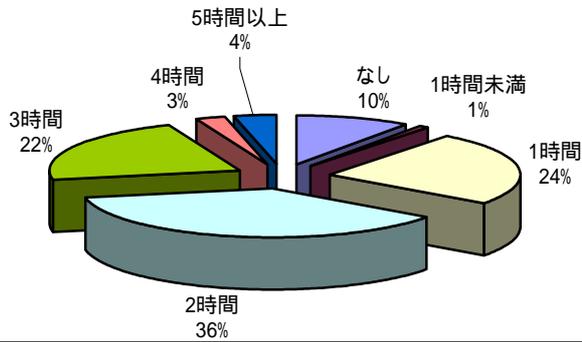
2004年度県立学校に働く養護教諭に対し超過勤務に関してアンケートをとった。健康診断時期は、ほとんどの人（90、0%）が「超過勤務がある」と回答し、健康診断時期以外でも70.9%の人がいると答えた。超過時間は3時間以上が29.1%、4時間・5時間、それ以上という人もあり、驚くべき結果が浮き彫りになった。勤務時間外の仕事は、事務処理や資料作成が最も多くなっている。生徒が学校にいる間は生徒対応（本来の執務であり、待たなしの仕事でもある）に追われ、事務処理が時間外にずれこんでしまう。また、補習や部活動などで遅くまで生徒が残っているため、相談や救急処置も時間外に多くなっている。救急処置、検温、相談、書類書きなどなど・・・学校によっても差はあるが、一日に100人ほどに対応している。

このような中で健康状態はどうか。体調不良を訴える人が半数近くにのぼり、その半数以上が「肩こり・腰痛がひどい」「常に疲労感」といった慢性疲労を訴えていた。「眠れないことが多い」との訴えも多く、健康状態は深刻と言わざるを得ない。私たちの仕事は、子どもたちの様々な訴えに耳を傾け、メンタルな部分に関わることも多い。教職員からの相談も多い。じっくり一人一人の訴えを聴き、目には見えない言葉の奥に隠された心の問題に時間をかけて向き合わなければならない。また救急処置も緊張を求められる。授業中も放課の時間も生徒がいて、休憩・休息もとれない。子どもたちから慕われ、やりがいのある仕事ではあるが、いつも子どもたちから目が離せず緊張を求められる仕事のため、肉体的にも精神的にも疲労が蓄積している。

9月半ばから10月半ばまでの一ヶ月間の超過勤務調査では、ある50代の養護教諭は平日の平均勤務時間は11時間35.8分となっていた。平日19日中17日は休憩時間が全くとれず、「いつも疲れている」と訴え、「健康にやや不安を持っている」と回答した。

生徒数800人以下では、学校にただ一人の養護教諭。このままでいいのでしょうか？

超過勤務時間(健康診断時期)



健康状態

